

## 介護職員初任者研修カリキュラム(令和5年度)

鹿児島障害者職業能力開発校

介護職員初任者研修

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護職の仕事と働く現場の理解	6	1 多様なサービスの理解 ・介護保険サービス、介護保険外サービス ・介護と介護保険制度の意義 2 介護職の仕事や働く現場の理解 ・介護職の仕事内容と働く現場、施設介護・訪問介護についての実際 ・地域社会資源との連携・キャリアパスの全体像
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 人権と尊厳を支える介護	6	1 人権と尊厳の保持 ・個人としての尊厳・権利擁護・個人の尊厳と価値・社会的役割の実感 2 ICF(国際生活機能分類) ・介護分野における ICF 3 QOL(生活の質) ・QOL・生活の質と人間の尊厳 4 ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの理念と実際・ノーマライゼーションの歴史 5 虐待防止・身体拘束禁止 ・高齢者虐待防止法・養護者支援・身体拘束禁止 6 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活支援事業
第2節 自立に向けた介護	3	1 自立支援 ・「自立」と「自律」・残存能力の活用・重度化防止 ・自立支援のための介護方法・個別のケア 2 介護予防 ・介護予防と健康寿命・介護保険と介護予防・介護予防と社会的入院
合計	9	

3 介護の基本 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1 介護環境の特徴 ・訪問介護と施設介護サービス・地域包括ケア 2 介護の専門性 ・重度化防止、遅延化の視点・利用者主体の支援姿勢・自立援助 ・根拠のある介護・事業所内チーム・多職種から成るチーム ・医行為と医療的ケア 3 介護に関わる職種 ・チームケアにおける役割分担・介護に関わる職種の機能と役割
第2節 介護職の職業倫理	1.5	1 介護職の職業倫理 ・法令遵守・利用者の個人の尊厳と介入 ・日本介護福祉士会の倫理綱領 ・介護職としての社会的責任・プライバシーの保護
第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1 介護における安全の確保 ・介護における安全確保の重要性・リスクマネジメント ・リスクマネジメントにおける重要な要素 2 事故予防、安全対策 ・危険予知と事故予防・事故発生時の対応・具体的事例 3 緊急時に必要な知識と対処方法 ・想定される事故・応急手当・応急手当の実際・一次救命処置 4 感染対策 ・感染症の理解・注意すべき感染症とその対応・感染症予防対策
第4節 介護職の安全	1.5	1 介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理・介護職に起こりやすい健康障害・腰痛予防 ・感染症の予防・ストレスマネジメント
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (12時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護保険制度等	3	1 介護保険制度創設の背景と目的・動向 ・社会的背景・介護保険法の成立・介護保険制度の導入後の動向 2 介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み・サービス利用の流れ ・介護保険サービス（介護給付、予防給付） ・地域支援事業、市町村特例給付、地域包括支援センター 3 介護制度の財源、組織・団体の機能と役割 ・制度運営の役割分担・介護保険事業計画・サービス事業者の質の確保・苦情への対応・情報公表、第三者評価 4 医療保険制度の概要 ・医療保険制度の概要・後期高齢者医療制度の概要 5 年金保険制度の概要
第2節 医療との連携とリハビリテーション	6	1 高齢者の服薬と留意点 ・介護職員による服薬介助・高齢者の服薬 2 経管栄養、吸引、吸入、浣腸など ・経管栄養による栄養管理・吸引・吸入・浣腸・排便・ストマの取り扱い、自己導尿の介助、褥瘡の予防と処置、その他 3 健康チェック ・身体観察の視点と観察技術・全身観察・体温、脈拍、血圧、呼吸 4 訪問看護 ・訪問看護事業所・訪問看護と訪問介護の連携 5 リハビリテーション医療の意義と役割 ・リハビリテーションの意義・リハビリテーション医療の流れ・リハビリテーション医療と介護の連携 6 リハビリテーション医療の過程 ・急性期、回復期、維持期リハビリテーション 7 訪問、通所、地域リハビリテーション
第3節 障害福祉制度とその他の制度	3	1 制度創設の理念・背景と目的 ・法律で定める障害の捉え方・障害者福祉の背景と動向・障害者雇用と就労状況 2 制度の仕組みと基礎的理解 ・障害福祉サービスの仕組み 3 個人の権利を守る制度の概要 ・消費者基本法・障害者虐待防止法・福祉サービス第三者評価 ・成年後見制度・日常生活自立支援事業・障害者差別解消法
合計	12	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護におけるコミュニケーション	3	1 コミュニケーションの意義と目的, 役割 ・コミュニケーション・コミュニケーションの基本要素・目的と方法 ・相手のコミュニケーション能力への理解と配慮 2 コミュニケーションの手段と技法 ・言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 3 利用者・家族への対応の基礎知識 ・利用者の信頼を得るためのカウンセリングマインド ・良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション 4 利用者・家族への対応の実際 ・利用者, 家族の思いを把握するコミュニケーション・利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション・家族へのいたわりと励まし 5 利用者の状況, 状態に応じた対応 ・障害に応じたコミュニケーション技術・認知症に応じたコミュニケーション技術
第2節 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1 記録における情報の共有化 ・記録の意義, 目的・種類・書き方・記録に関わる法令・個別援助計画書・ヒヤリハット報告書・5W1H 2 報告・連絡・相談 ・報告, 連絡, 相談 3 コミュニケーションを促す環境 ・会議の種類と姿勢・ケアカンファレンス・サービス担当者会議・事例研究
合計	6	
6 老化の理解 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1 老年期の発達と心身の変化の特徴 ・加齢と老化の概念・人格と尊厳・老いの価値・老年期の性 2 心身の機能の変化と日常生活への影響 ・心身機能の変化・身体的変化・心理的变化 3 精神機能の変化と日常生活への影響
第2節 高齢者と健康	3	1 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・老年症候群・老年症候群の早期発見・運動器の機能向上・口腔機能の改善・低栄養の改善・認知機能の向上・尿失禁の改善 2 高齢者に多い病気と生活常の留意点 ・生活習慣病・脳神経の病気・循環器系の病気・呼吸器の病気・肝臓胆道系の病気・腎泌尿器の病気・骨関節の病気・精神の病気・眼と耳の病気・皮膚の病気
合計	6	

7 認知症の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 認知症を取り巻く状況	1	1 認知症ケアの理念 ・ 理念・パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点
第 2 節 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1 認知症の概念と原因疾患・病態 ・ 認知症の概念・認知症の中核症状と周辺症状・認知症の原因疾患の診断, 治療 ・ 認知症と間違えやすい症状・認知症についての最近の話題 2 原因疾患別ケアのポイントと健康管理 ・ 食生活の偏り・脱水・便秘・低栄養・運動量の低下・廃用症候群 ・ 口腔ケア
第 3 節 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1 生活障害, 心理・行動の特徴 ・ 認知症の人の心の内・周辺症状・原因疾患による違い 2 利用者への対応 ・ ケアのあり方と周辺症状・非薬物療法
第 4 節 家族への支援	1	1 支援と介護の受容過程 ・ 受容過程での援助・レスパイトケア
合計	6	
8 障害の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 障害の基礎的理解	1.5	1 障害の概念と ICF ・ 障害者福祉の基本理念・概念と ICF (障害者福祉の基本理念)
第 2 節 障害の医学的側面の基礎的知識	3	1 肢体不自由 (身体障害) ・ 代表的な病気とその障害像・生活援助のポイント・廃用症候群 ・ 障害の受容 2 内部障害 ・ 代表的な疾患障害・生活援助のポイント・その他の疾患障害 3 視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害 4 音声, 言語, 咀嚼機能障害 5 精神障害 ・ 概要・統合失調症・そううつ病・神経症性障害・アルコール依存症・高次脳機能障害 6 知的障害 7 発達障害 8 ダウン症
第 3 節 家族の心理の理解, かかわり支援の理解	1.5	1 家族の心理・かかわり支援 ・ 介護する家族のストレス・障害の理解と受容支援・介護負担の軽減
合計	6	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	第1節 基礎知識の学習	3	1 介護の基本的な考え方 ・理論に基づいた介護・法的根拠に基づく介護
	第2節 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	1 学習と記憶に関する基礎知識 ・学習の諸理論・記憶のメカニズム・海馬と扁桃体 2 感情と意欲に関する基礎知識 ・感情とそれに類似する概念・思考と認知の概念・体力と意欲の関係 3 自己概念と生きがい ・基本的欲求と自己有用感・今できていること・よりどころの必要性 ・生きがいと意欲 4 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ・喪失感・障害受容のプロセス・再生支援・動機づけ
	第3節 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	1 健康チェックとバイタルサイン ・バイタルサイン・体温と脈拍の測定・血圧・全身観察 2 骨・関節・筋肉に関する基礎知識 3 中枢神経系と自律神経に関する基礎知識 4 内部器官に関する基礎知識 ・基礎的構造と仕組み、役割
生活支援技術の講義・演習	第4節 生活と支援技術	9	1 生活と家事 ・人のくらし 2 家事援助の基礎的知識と生活支援 3 家事援助の技法 4 ベッドメイキングの必要な基礎知識と方法 (DVD 視聴) ※ベッドメイキング演習・シーツ交換の実際演習
	第5節 快適な居住環境整備と介護	3	1 快適な居住環境に関する基礎知識 ・人とすまい 2 介護保険による住宅改修 ・目的・概要 3 福祉用具に関する基礎知識 ・概念・代表的な福祉用具・福祉用具貸与、購入費の支給
	第6節 整容に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	1 整容に関する基礎知識 ・整容行動とは・具体的な整容行動 2 整容の支援技術 ・爪切り・口腔ケア・衣服の着脱 ※口腔ケアの実際・衣服の着脱演習 (和式・パジャマ)

<p>第7節 移動・移乗に関するところ とからだのしくみと自立に 向けた介護</p>	<p>9</p>	<p>1 移動・移乗に関する基礎知識 ・意義目的・残存能力の活用・ボディメカニクス</p> <p>2 移動, 移乗のための用具と活用方法 ・福祉用具の種類と活用方法</p> <p>3 負担の少ない移動, 移乗と支援方法 ・体位変換・移乗・歩行介助・車椅子の介助</p> <p>4 移動と社会参加の留意点と支援 ※実技演習(体位変換, 車椅子移乗・移動, 歩行介助, グループワーク)</p>
<p>第8節 食事に関するところとから だのしくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6</p>	<p>1 食事に関する基礎知識 ・食事の意味・目的・食事の仕組み・粗食と嚥下・加齢, 障害</p> <p>2 食事環境の整備と用具の活用方法</p> <p>3 楽しい食事を阻害する要因と支援方法</p>
<p>第9節 入浴と清潔保持に関するこ ところとからだのしくみ自立 に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>1 入浴と清潔保持に関する基礎知識 ・入浴の介護・清拭の介護・</p> <p>2 入浴と整容の用具活用方法 ・シャワー浴, 片麻痺の入浴介助・清拭・手浴, 足浴・洗髪, ひげそり</p> <p>3 楽しい入浴阻害する要因と支援方法 ・リスクと対応 ※多機能浴室で実演習(水なし)・腕, 顔面の清拭演習・介護用人体模型 での清拭・意見交換</p>
<p>第10節 排泄に関するところとから だのしくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6</p>	<p>1 排泄に関する基礎知識 ・意義, メカニズム・自立支援の視点</p> <p>2 排泄環境の整備と用具の活用方法</p> <p>3 爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 ※DVD 視聴, トイレ支援の介助の演習・便座, 尿器での介助を演習</p>
<p>第11節 睡眠に関するところとから だのしくみと自立に向けた 介護</p>	<p>3</p>	<p>1 睡眠に関する基礎知識 ・基礎知識・役割・睡眠障害の種類</p> <p>2 睡眠環境と用具の活用方法 ・環境整備・寝具</p> <p>3 快い睡眠を阻害する要因と支援方法</p>
<p>第12節 死にゆく人に関するところ とからだのしくみと終末期 介護</p>	<p>3</p>	<p>1 終末期に関する基礎知識 ・終末期ケアとは</p> <p>2 生から死への過程とこころの理解 ・終末期の心理</p> <p>3 事例紹介 ※自分らしい終末期, 自分ならどうありたいか…DVD 視聴と意見交換</p>

生活支援技術演習	第13節 生活支援技術演習	3	1 介護過程の基礎的理解 ・目的・意義・展開・ ※事例の例示から分析方法を学ぶ
		9	2 総合生活支援技術演習 ※ 2事例をあげ二人組で整容の方法・移動の介助の場面で日常生活支援の演習を行う。実演の根拠を話し合いながら、どうすべきか意見交換する。
合計		75	
10 振り返り (6時間)			
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 振り返り		3	1 振り返り, 研修のまとめ ・研修を通じて学んだこと
第2節 就業への備えと研修修了後における継続的研修		3	1 事業所等におけるOJT・Off-JT ・継続的研修
合計		6	
<b>カリキュラム合計時間</b>		<b>(138時間)</b>	<b>(92コマ)</b>

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

開講式・閉講式・オリエンテーション	3時間(2コマ)
講座復習・確認テスト(模試含む)	6時間(4コマ)
<b>総時間(カリキュラム+上記)</b>	<b>147時間 (98コマ)</b>